

登録コード	E9122304	開講年度	2026			
授業科目	教育心理学特別演習 E				担当教員	高橋 史
英文授業名	Advanced Seminar in Educational Psychology				副担当	
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室	教育研究室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観			専門理論または実証的知見と結びつけながら自身の意見を建設的に表現できるようになる。		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能			学術雑誌または各種メディアに掲載された論文・記事の要点を迅速かつ的確に読み取れるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働、キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	学術雑誌および各種メディアに掲載された心理支援に関連する論文・記事を教材としてディスカッションを行い、各テーマに関するエッセイの執筆および口頭発表を行う。					
(5)授業計画	第 1 回：オリエンテーション：聞き上手な隣人と心理支援専門職の違い 第 2 回：効果的な伝え方(1)：単一の文献を詳細に引用する 第 3 回：効果的な伝え方(2)：複数の文献を同時に引用する 第 4 回：効果的な伝え方(3)：複数の文献を連続して引用する 第 5 回：効果的な伝え方(4)：自分の主張と異なる知見を引用する 第 6 回：効果的な伝え方(5)：評価的表現よりも記述的表現を優先する 第 7 回：効果的な伝え方(6)：コミュニケーションの場を区別する 第 8 回：効果的な読み方(1)：著者と対話をする 第 9 回：効果的な読み方(2)：類似のテーマに関する他の文献と比較する 第10回：効果的な書き方(1)：時制を使い分ける 第11回：効果的な書き方(2)：言い換え表現を使う 第12回：効果的な書き方(3)：見出し・接続詞・段落構成で論を展開する 第13回：効果的な書き方(4)：口語と文語を区別する 第14回：効果的な書き方(5)：適切な引用をする 期末レポート					
(6)成績評価の方法	・授業のねらい の到達度を測る各授業回の課題および期末レポート：50% ・授業のねらい の到達度を測る各授業回の課題および期末レポート：50% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(7)成績評価の基準	() 指示に準じた最低限の作業が遂行されており， () 作業の質を高めるための新たな作業内容や遂行方法等について自ら発案し， () 特定のテーマについて5編以上の学術論文を引用しながら過去の研究知見を整理できており () 特定のテーマについて10編以上の英語学術論文を引用しながら過去の研究知見を整理できており () その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」 () から() の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	・授業中に配布される資料や論文検索システムなどを使って授業内容を十分に予習・復習してから次回授業に臨むことを強く推奨する。					
(9)履修上の注意	・研究室所属学生のみを対象とする。 ・発表レジュメおよび原論文には必ず目を通してから出席すること。自習に時間を割くことを苦にしない学生の受講を求める。					
(10)質問，相談への対応及び連絡先	高橋史研究室（東校舎4階 E406） オフィスアワー 木曜日13:00～14:30 TEL 026-238-4231 e-mail f_taka@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	指定しない					
【参考文献】	指定しない					